

教職員対象LGBT SD研修

「大学における性的マイノリティ 学生・教職員への対応」 開催報告

【日 時】令和元年 11 月 21 日（木）10：00～12：00

【場 所】長崎大学文教キャンパス

環境科学部 1 階 大会議室

【対 象】全教職員（非常勤含む）

【参加者】26 名

【プログラム】

1. 日高先生自己紹介・講話
2. DVD視聴「みんなで考えるLGBTs（いろいろな性～好きになる性～）」
3. 質疑応答
4. 中島副センター長あいさつ

【内容】

1. 日高先生 自己紹介・講話

（自己紹介）

- ・1 番の専門は社会調査や健康教育（エイズ予防）である。

（講話）

※資料に基づいて説明

- ・国の動きとしては、2015 年に文部科学省が性同一性障害関係で通知し、その後 3 年連続で公の文書で言及している。
- ・文部科学省が通知を出したことで、各都道府県教育委員会が動き始めた。
- ・LGBT 学生にとっての支援としては、学内規程に明文化することが大切。当事者は何かあれば、これらを根拠に訴えることができる。各種申請書類等において必要がない場合は性別は聞かない、書かせない。
- ・カリキュラムの改変、講義に盛り込み、大学が講義を通じて「伝える」ことが大切。関連する研究テーマに取り組む研究者の採用等アカデミアとして、「性的指向と性自認の多様性」の理解推進を後押しする動きが求められる。
- ・当事者の中には学生のうちに性別適合手術を終えたうえで就活・就職したいと思う場合がある。大学の就活の支援部署はLGBTsの取組を積極的にしている企業等の情報を事前に持つておくことが大事。
- ・FD/SDは複数回の開催が必須。教職員の言葉遣いで当事者である学生を傷つけてしまうことがある。学生が何かあれば訴えができるよう、ハラスメントの窓口も適切に整備・周知する。
- ・大学に限らず小中高の先生向けの研修の実施も必要。1 回研修しただけでは一気に変わらないが、からかいや揶揄など余計なことを言う人は減る。
- ・公の立場の人が言っていること悪いことをわきまえて表現しなければならない。
- ・NG ワードは言わないように気をつける。知らないで言ってしまう可能性あり。そのため、講義や研修等が必要になる。
- ・LGB（性的指向）と T（性自認）をバランスよく両方に対応した上ではじめて LGBT に対応していると言える。トイレや更衣室や体育等どうしても T への対応だけを考えてしまうので LGB のことも考えることが必要。
- ・当事者が安心して話すことができるためには、言っても大丈夫だよといつも伝えておく。アウティングは最も恐れていることのひとつ。



2. DVD視聴「みんなで考えるLGBTs（いろいろな性～好きになる性～）」

- ・3巻のうち1巻を視聴

① いろいろな性 ～好きになる性～

18V0006S



異性を好きになるか、同性・両性を好きになるか、あるいは誰にも恋愛感情を抱かないといった性的指向は、嗜好や志向とは異なる「指向」であり、本人が選択できるものではないと考えられています。本巻は、同性愛者（ゲイ、レズビアン）である生徒たちのドラマを見ながら、好きになる性の多様性について考える映像教材です。（約23分）

・「授業実施のための展開案」PDF付き

※3巻ともダイバーシティ推進センターで購入済（プレイルームに保管）

3. 質疑応答

Q1) 大学教員採用における履歴書において性別を問うているが、どの判断での性別なのか、どう考えていけばよいのかと思っている。

全体に通じる基本的な考え方はあるのか。また、ダイバーシティを進めるにあたり女性教員の登用だけでなくLGBTの方々もそこに入っていくべきだと思うが、そのような取組がなされている大学等を知っていればご教示願いたい。

A1) 何をもって性別なのかは、本人の自認する性別で宜しいのではないかと。

LGBT当事者の特定枠ということは聞いたことがないが、LGBTや多様性に関連する科目を配置するような方に舵をきった方がいい。今のカリキュラム+αになるので新カリキュラムの検討をする等。大規模な大学であれば、ダイバーシティやLGBTに特化する研究室があってもいいのではと思う。

4. 中島副センター長あいさつ

- ・当大学では、現在ガイドラインを作成中。できれば今年度仕上げたいと思っている。今後もSD等の機会をつくっていくので周囲の方々にも案内いただき多くの方々に受講していただきたいと思う。

